

(学校運営協議会・報告様式)

## 令和8年度 第2回 椿小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年6月25日(金) 14:45～16:00

2 場 所 校長室

3 あいさつ(学校長、委員長)

4 協議事項

(1) 学校生活の現状について

### ① いじめアンケートより

**いじめへの対応：** 初期段階での適切な対応に対し、委員から評価が示された。今後  
もいじめの定義を踏まえ、大問題へ発展させないための早期発見・早期対応を徹底  
する。

**登校しづらい児童への支援：** オンライン学習支援や保健室登校の受け入れ、行政等  
の専門機関と連携した見守りの現状を共有した。委員からは、社会福祉協議会等が  
実施する相談会の情報提供など、より広い視点での地域連携の重要性が提案され  
た。

### ② 学力・体力・非認知能力について

#### ②-1 みえスタディ・チェックの現状と今後の取組

**現状と分析：** 4・5年生ともに、全教科で三重県の平均値を上回る成果が見られた。  
一方で、4年生は国語の漢字や記述、算数の分数やグラフ読み取りに課題があっ  
た。5年生は問題の難化に伴い、長文読解や条件付き記述、算数の複合グラフ、理  
科の多肢選択問題で苦戦する傾向が見られた。

**今後の対策：** 次回の調査や日常の学力向上のため、高学年を対象に朝の時間等を活  
用した「読む書くワークシート」を導入し、読解力・記述力を計画的に育成する。

#### ②-2 体力テストの現状と今後の取組

**現状と課題：** 持久力(シャトルラン等)は良好な一方、握力や柔軟性(長座体前屈  
等)の数値が低い傾向にある。外遊びの質の変化や、鉄棒・遊具などで手や指先を  
しっかり使う経験の不足が要因として考えられる。

**今後の視点：** 特定のイベントだけでなく、学校外での定期的な運動も含め、日常的な運動習慣をどのように育んでいくかが今後の大きな課題である。

## ②－３ 非認知能力の現状と今後の取組・協議

**現状と課題：** 一部で自己肯定感の育成に課題が見られるため、学級での肯定的な関わりを増やし、今後の定期調査で児童の意識変化を注視する。

**アンケート結果に関する協議：** 個別追跡について学校側は、本音の回答を妨げる恐れから慎重な姿勢を説明。委員からは「控えめな地域性や向上心の高さから低く回答しがち」との指摘があり、数値に囚われず多角的に実態を捉える必要性を共有した。

**今後の取組：** 中学校区全体での「ポジティブメッセージカード」の継続や、日常的な「非認知能力を高める絵本」の活用により、児童の前向きな生活を組織的に支援する。

## （２）「８・３運動」の取組について

**現状と感謝：** 「８・３運動」において、現在も多く地域住民が登校時の見守り活動に協力している現状が共有され、学校長から感謝の意が示された。

**今後の啓発活動：** 今年度も引き続き保護者や地域住民へ協力を呼びかけるため、学校運営協議会委員長と学校長の連名で回覧板を巡回させる予定である。

## ５ 授業を見ていただいた意見交換

① **ICT教育の現状とバランス** １人１台端末を活用した意見共有や協働学習を評価する一方、手書きの減少を懸念する声もあり、デジタルとアナログを調和させた指導を求める意見が出された。

② **少人数学級のメリットと懸念点** きめ細かな個別指導ができる利点がある一方、極端な少人数では集団行動の規律やクラス意識の形成に工夫が必要であるとの懸念が示された。

③ **授業内容および指導方法** 自主性を引き出す授業への転換や視覚的な分かりやすさが評価された。同時に、自由度の高い現代の授業における教員の高い指導力の重要性も指摘された。

④ **校内掲示について** 「聞き名人・話し名人」の掲示や「ポジティブメッセージ」の取組は、良好な人間関係や豊かな人間性を育む上で有意義であると高く評価された。